

2022年7月7日

報道関係者 各位

みやまの蛍丸フェスティバル実行委員会



「みやまの蛍丸フェスティバル」を開催します。

「100年後、200年後も海津のお宮を存続させたい！そのためには、神社の由緒として伝わる蛍丸伝承を多くの方に知っていただきたい！」この一心から、みやま市に鎮座する筑後乃国阿蘇神社の由緒を元にした演劇を中心としたフェスティバルを開催します。

日時：2022年11月12日（土）、13日（日）

場所：みやま市総合市民センター、みやま市立図書館（調整中）

後援：みやま市 共催：みやま市観光協会

◆ 演劇「蛍は舞った ～蛍丸伝説と多々良浜合戦乃事～」

- 11/13(日)

出演：(劇)池田商会 瀧猫亭

劇中ナレーション：井口祐一(刀剣乱舞/蛍丸役など)

筑後乃国阿蘇神社の由緒である海津の蛍丸伝承を題材に公演。



◆ シンポジウム - 11/12(土)

第一部「刀剣で切り取る阿蘇神社（仮）」

基調講演：肥後一ノ宮阿蘇神社より池浦秀隆権禰宜（学芸員）

第二部「刀剣の魅力～蛍丸を中心に～（仮）」

プレゼンター：ふなっしー（千葉県船橋市非公認キャラクター）

◆ 特別刀剣展 - 11/12(土)～13(日)

日本刀剣博物技術研究財団のご協力の下、刀剣展示。

◆ 蛍丸伝承と筑後の刀剣展 - 11/12(土)～13(日)

本歌蛍丸拓本（複製）、蛍丸復元刀（個人蔵）、

雷切丸（立花家史料館所蔵）展示。

本歌蛍丸に関する情報の展示。

◆ 物産展 - 11/12(土)～13(日)

柳川市・大牟田市・菊地市・みやま市観光協会より物産展。

キッチンカー、お土産店の出店。

刀匠による現代刀鑑賞会他。



港町産まれの梨の妖精。
落書きがそのまま飛び出したような
雑でゆるい顔が特徴。
日本刀コレクターとしても知られ、
現在 50 振り以上の日本刀を所有する。

©ふなっしー

* 上記にかかる経費約 800 万円の内 400 万円をクラウドファンディングにて調達の予定。
<https://readyfor.jp/projects/1336aso>

返礼品は 1/2 スケール蛍丸写し、演劇チケット、DVD、1/6 スケール蛍丸ペーパーナイフ、筒井時正玩具花火製造所製作の線香花火「蛍丸」、御刀印「蛍丸」、記念御朱印帳他。

◆ 主催及び連絡先：

みやまの蛍丸フェスティバル実行委員会

代表：江良 智香

福岡県みやま市高田町海津 1669

hotafes1336@gmail.com

TEL:090-3013-6470(江良)(9:00~19:00)

FAX:0944-63-2843(9:00~19:00)



みやま市総合市民センター (MIYAMAX) 想像図



筑後乃国阿蘇神社 (福岡県みやま市海津)

* みやまの蛍丸伝承

南北朝時代、南朝方についた阿蘇大宮司である阿蘇惟直(アソノケ)と義弟の恵良惟澄(エノラミ)らは、多々良浜にて大敗。

惟直は惟澄に大太刀(蛍丸)を託して自刃。

惟澄は辿り辿って杣の里より矢部川を下り、川のほとりで眠った。

傍らの欠けた刃へ無数の蛍が集まり、光を明滅させる。

翌朝、惟澄が目を覚ますと太刀は元の如く青白い光を放つ、

こぼれの全くない銘刀にかえていた。

惟澄の傷が癒えるまで城内に留まらせた大木城城主・大木貞久の

勧めもあり、惟澄は海津の地に阿蘇の神様を奉祀した。

早鷹宮、これが筑後乃国阿蘇神社の前身である。

令和四年(2022年)には創建 685 年、移転御鎮座 400 年を迎える。

